

過疎地域における公共交通~高知市土佐山を対象として~

1220561 宮田 和輝

指導教員 那須 清吾

研究背景

土佐山では県北部交通が路線バスを運行していたが、採算がとれず撤退した。現在は代替交通という形で高知市が運営している。また、高知市は第2さくら交通に地域内デマンド型交通を業務委託している。両事業者に対して多額の補助金が支給されており、補助金なしでは運行することが厳しいのが現状である。そこで地域において根本的な問題は何か。また、解決するためにはどうすればよいのか疑問に思った。

研究目的

本研究の目的は、土佐山の地域課題を公共交通の面から改善することである。

調査・分析方法

本研究は、最初に土佐山が衰退した原因を明らかにする。次に、インタビュー調査を実施し、土佐山の地域構造を明らかにする。解明された地域構造と各交通モードの特徴をとらえた変数とのマッチングを行う。そこから得た課題を分析し、先端技術や地域資源などを含めた解決案を作成する。最後に改善案の評価基準を説明する。

分析結果

土佐山ストアを維持する重要性をふまえ、現状より1000万円程度削減する必要がある。公共交通の組み合わせから利用者が少ない場合、地域内の移動に対する需要が大きい場合、自動運転が導入された場合の3つの改善策を得ることができた。

考察・結論

3つの路線に分かれるという土佐山の地域構造からデマンド型交通を用いて各地域に送迎することが最適だとわかった。土佐山ストアを維持するための費用を捻出するためにもバスやデマンド型交通の減便や変更、自動運転の導入など検討して行かなければならない。その過程の中で住民の意見や需要は施策に反映させていかなければならない。今回の調査を行うにあたって、白タクを規制緩和した場合の公共交通に対する需要の変化。住民が土佐山ストアの品ぞろえをどこまで求めるのか。品ぞろえを豊富にすることで買い物の行動は変化するのか。公共交通が減便することに対する評価。これらの要素を住民に聞き取り調査できていない。住民の意見を反映した施策にするためにも、これらの要素を調査する必要がある。